



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉

2026年07月21日 第1276「週刊五十嵐レポート」

ものづくり×AI

7月17日付日経新聞、「国産AI、製造現場で磨く」という記事。国産の人口知能(AI)基盤を開発する企業連合が正式に発足。ソフトバンクなど44社が組み、AIと融合させるデータを構築して製造業の競争力を高める。

日本はOpenAIやGoole、DeepSeekと同じ土俵(LLM「大規模言語モデル」)では戦わない。理由は米中(投資額、GPU数、データ量、研究者数)が圧倒しているから。日本が世界一持っているものとは。それは現場(製造現場)。たとえば、トヨタの改善(カイゼン)、ファナックのロボット制御、DMG森精機の加工ノウハウ等々の数十年蓄積された「現場知」。

熟練工は「なぜそうするの?」と聞かれても「なんとなく」と答える。しかし、実際には、「音」「振動」「匂い」「温度」「加工面」「モーター音」など総合的に判断。身体が覚えている。これが「暗黙知」。AIは今後、この暗黙知をデータ化→学習→再現できるようになる。

フィジカルAIとは、「ロボット」「機械」「工場」を動かす技術。ここで必要なのは「考えるAI」ではなく、「動けるAI」。人なら、「このネジは少し硬いな」と感じる。ロボットは、「力覚センサー」「画像」「音」「振動」「AI」を全部組み合わせる最適な締め付けを行う。これがフィジカルAI。

中国はロボット台数世界一。毎日大量のデータが集まる。100万人の職人が毎日働いているようなもの。フィジカルAIは急速に賢くなる。日本は台数では負けている。しかし、1台当たりの「品質」「精度」「改善力」ではまだ強い。日本は質の高いデータで勝負しようとしている。

なぜ44社が参加したのか。AIは1社だけでは育たない。全部合わせると、「工場」「鉄道」「発電所」「病院」「建設」「工作機械」「半導体」で学習できる。製造業向けAIが日本の新しい輸出産業になる可能性がある。日本のものづくりの知恵をAIに載せて世界へ提供する。

強みをより強くする。「弱者の戦略」に通じる。中小企業が学ぶのは、「アナログ」→「デジタル化」→「共有化」→「データ蓄積」→「AI」→「分析・評価」→「行動」→「成果」。まず自社の仕事をデータに残し、蓄積すること。

ちょっと
気になる出来事

6月30日付日経新聞、「ネパール、EV・PHV7割」という記事。

ネパールで中国の低価格EVが広がり、新車販売に占めるEV・PHVの比率が7割に上昇。中東危機をきっかけにグローバルサウス(新興・途上国)でもEVが急拡大している。

中国EVはすでに30社近くネパールに進出済み。新車販売台数は年2万弱、うちEVは1万2000台と規模は小さいがアジアの中でEV普及率は最も高い。

東アフリカのエチオピアでもEVが普及。24年ガソリン車の輸入禁止。EVとPHVの販売に占める割合は60%に達する。ラオス、ウルグアイなどもEVが普及し、25年にEV比率は約3割に達した。

日本ではEV普及率は3~5%。ゆえに日本人は世界におけるEV普及には無頓着である。世界は時々刻々と変化している。なぜネパールやエチオピアなどグローバルサウスでEVが著しく普及しているのか。それは自国で電力を産出しているからである。主に水力発電。ガソリン車であると石油を輸入しなければならない。EVだと自国の電力で賄う。中国企業は「車を売る会社」から「エネルギー会社」へ変わりつつある。



一口メモ
知識

何によって人に憶えられたいか

私が十三歳のとき、宗教の先生が生徒一人ひとりに「何によって人に憶えられたいかね」と聞いた。誰も答えられなかった。

先生は笑いながらこう言った「いま答えられるとは思わない。でも、50歳になって答えられないと問題だよ。人生を無駄に過ごしたことになるからね」。

(「非営利組織の経営」より)

ドラッカー名言集 仕事の哲学(ダイヤモンド社)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

